キャラクター名
折手凛

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ブラックドッグ	ワークス	風紀委員B	カヴァー	高等部1B生
オプショナル		年齢	15	性別	♀
覚醒	素体	衝動	飢餓	初期侵食率	30 %
出自	疎まれた子	経験	孤独	邂逅	あこがれ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	4	1	0			5
精神	2		0			2
社会	0		1			1

HP	26
行動値	12
(非装備時)	12
戦闘移動	17
全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	4		調達	1	
運転：			芸術：			知識：伝承	1		情報：ｱｶﾃﾞﾐｱ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
守護者	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
光の銃	1	2	セット					
効果：武器作成。A値SL+2								
RF:BD	3	2	リア					
効果：C値-SL								
ゲットダウン	1	2	リア					
効果：射撃でドッジ判定								
ミラーイメージ	1	4	セット				80↑	
効果：ドッジ判定C値-1、ラウンド中A値-5								
天からの眼	5	2	メ/リ					
効果：判定D+SL								
	1							
効果：								
	1							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

昔から、自信がなかった。友だちもできず、変な奴だとイジメられ、先生からは見放され。それを隠していたら、家族ともギクシャクして。私は根っこから不器用だった。
せめて親の期待には応えたいと門を叩いた「新生塾」は、まさかの化け物養成組織。私を除いた塾生は、みな死体かジャームになっていった。私だけ、生き残った。
そして、ついには家族からも疎まれた。表向きは普通に接されていても、私にはわかってしまった。化け物の私は□□化け物でなくとも、私は腫れ物だったのだ。
その日、生まれて初めて泣いた。居場所がきっとある□□そう信じていた自分が馬鹿だったと、不器用な自分を、世界を、呪った。
大切だと、特別だと思っていたものは、最初からなかった。
どうでもよくなった私は、UGNで手ほどきを受けつつ一年弱を空虚に過ごした。そんな私を見かねたUGNから、アカデミアを勧められ。そうして私は、高校への進学とともに日本を経つことに決めたのだ。
家族には、もう何も言わなかった。

新しい環境、知らない人たち。私を奇異の目で見る人は確かにいなかったが、だからといって不器用な私が馴染めるでもなかった。突然話しかけられては、しどろもどろな返答の繰り返し。私に興味を持つ人は次第にいなくなっていった□□
「同じ班、ね。よろしく、折手さん」
□□彼女、アナスタシアさんを除いて。
初めは、接しにくそうな人だと思った。真っ白な肌、きれいな瞳、生徒会の役職持ち、そして基本無表情。高嶺の花という言葉がピッタリな女の子。ただ一人雲の上にいる、そんな存在だった。
でも、ぜんぜん違った。
能力テストでたまたま同じ班になってから、彼女はずっと私に話しかけてくれた。どもっても、何も言わず待ってくれた。何でも聞いてくれたし、何でも言ってくれた。生徒会の仕事がない日は、一緒に帰ったりもした。
楽しかった。嬉しかった。□□怖かった。そんなにすごい貴女が、どうして私なんかに構うのか。わからなくて、たまらなく怖かった。
「私があんたといたいの。悪い？」